ウッディガーデンオアシス
（A・B・C・Dタイプ）
取付説明書

■施工前にこの取付説明書を必ずお読みのうえ、正しく施工してください。
■取扱説明書（同梱）は必ずお客様にお渡しください。
■ウッディガーデンオアシスの電気に関する施工は、電気工事士の資格が必要です。

安全に関する注意

ケガや事故防止のため、以下のことを必ずお守りください。

⚠設置場所に関するご注意

禁止

● 凹凸のある、転倒する恐れのある場所では使用しないでください。
～転倒すると雨水などの浸入により漏電して、感電の原因になります。～

必ず守る

● ウッドデッキのうえでは「木ねじ」で固定、芝生・生け垣の中などでは「アンカー」を打ち込んで使用してください。
～固定しないで使用すると転倒等の原因になります。～

● 積雪が30㎝以上になりウッディガーデンオアシスが雪に埋もれる場所で使用する場合は、冬季の使用しない期間は電源ケーブルをコンセントからはずし、ポール本体にポリ袋を被せて、コンセント部分を保護してください。
～ポリ袋がないとポールに積もった雪が溶け、コンセントが濡れて漏電し、感電の原因になります。～

⚠ポール本体に関するご注意

禁止

● ポール本体に穴を開けたり部品を組み替えたりする改造は、しないでください。
～ポールの強度低下や、電気的トラブル発生の原因になります。～

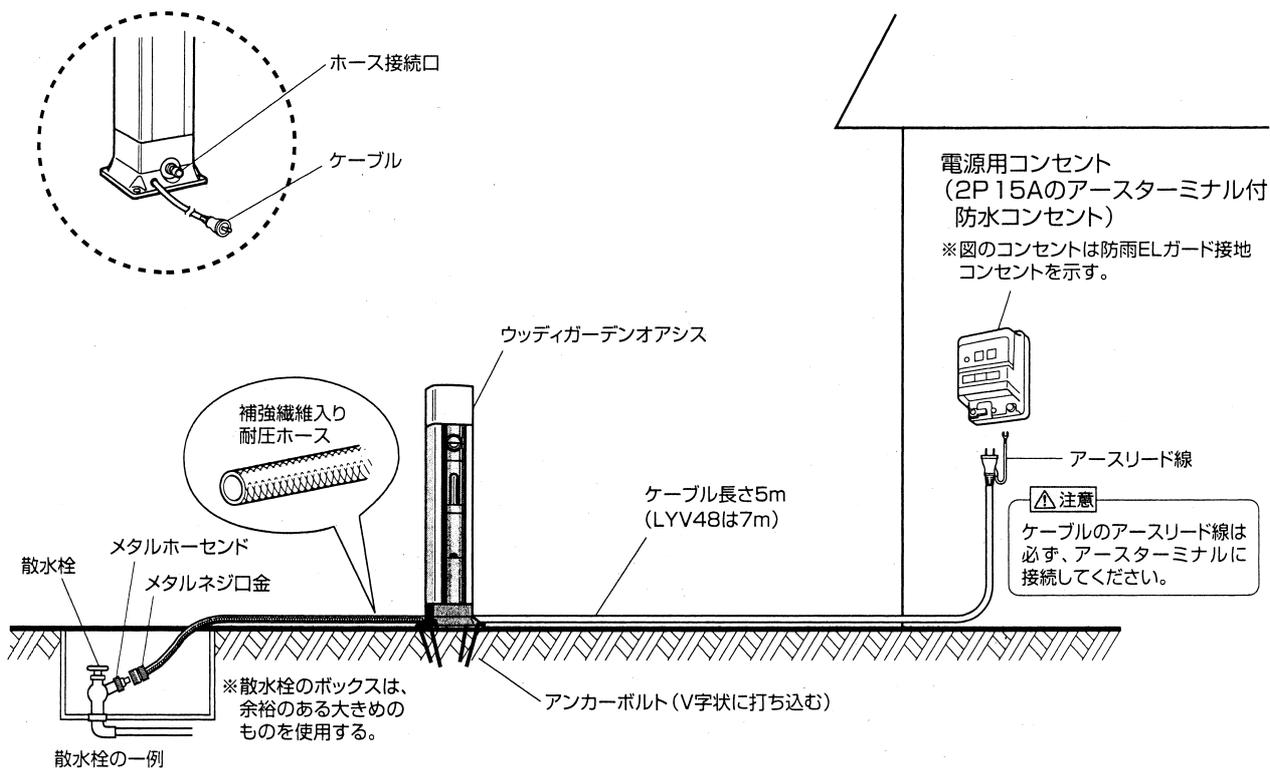
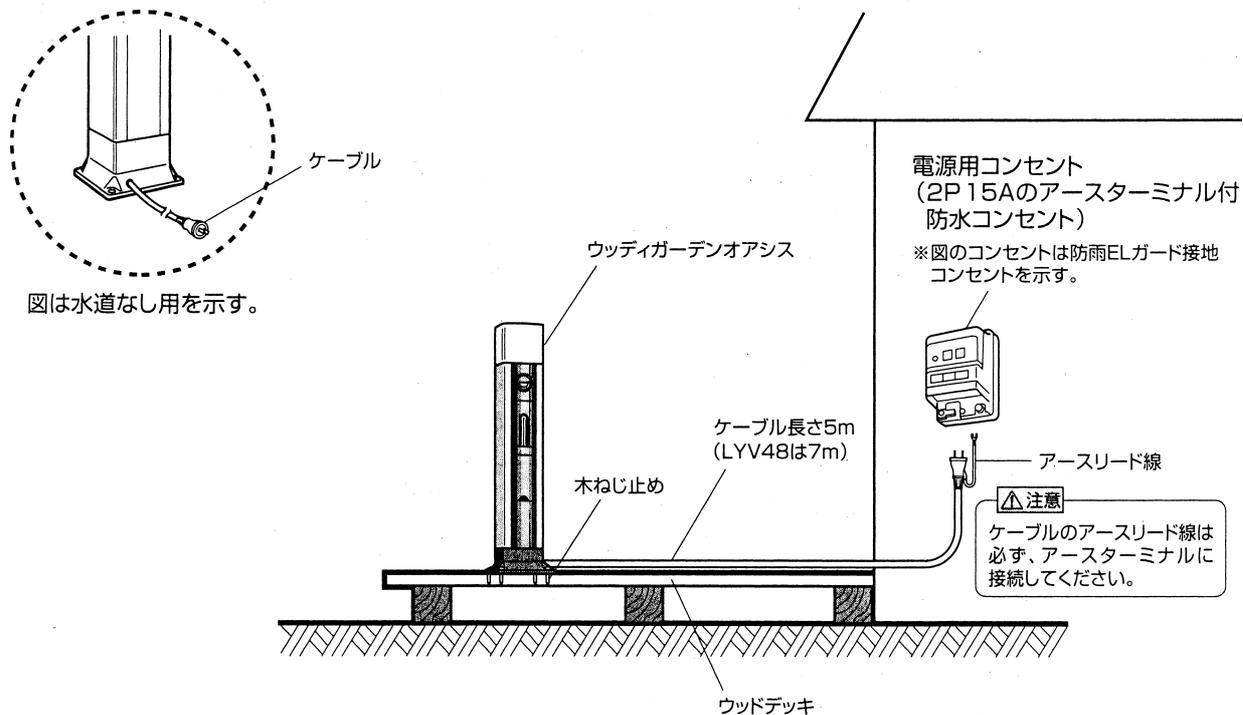
● ポールは埋め込まないでください。
～コンセントの地上高さが低くなり、雨水等の飛散によりコンセントが濡れて漏電し、感電や火災の原因になります。～

必ず守る

● 電源ケーブルは、アースターミナル付きの防水コンセントに接続してください。
～漏電した場合、感電事故の原因になります。～

● 電源ケーブルは、人に踏まれない位置に敷設してください。
～ケーブルの被覆が損傷し、漏電して感電の原因になります。～

1 施工図

■芝生（生け垣）での使用

■ウッドデッキでの使用

2 施工の前に

1.電源用コンセントの確認

● アースターミナル付きの防水コンセントが近くにあることを確認してください。
（ない場合は、電気工事会社（店）に依頼して取り付けてもらってください。
●電源ケーブルは、必ず漏電ブレーカで保護されたアースターミナル付の防水コンセントに接続してください。
～漏電発生時、感電の原因になります。～

⚠注意
上記以外のコンセントに接続すると漏電発生時、感電の原因になります。

■代表的なアースターミナル付き防水コンセント

※ パソコン等のOA機器をご使用になっている場合は、万一の漏電時にパソコンの電源が切断されるのを防止するために漏電ブレーカ内蔵コンセント（WK4202K）のご使用をお薦めします。
● 上記以外のコンセント、例えば下図の図A～Fなどの場合は、コンセントをWK4202Kに交換してください。漏電ブレーカ内蔵コンセント（WK4202K）に接続した場合は、漏電発生時に主幹の漏電ブレーカが作動し、他の電気機器への給電が止まるという事が防げます。
（コンセントの交換は電気工事店に依頼してください。）
※ コンセントが交換できない場合は、アース棒を地中に打ち込み、電源ケーブルのリード線をアース棒の接地線に接続してください。

■アースターミナルがないコンセントの例

2 施工の前に（つづき）

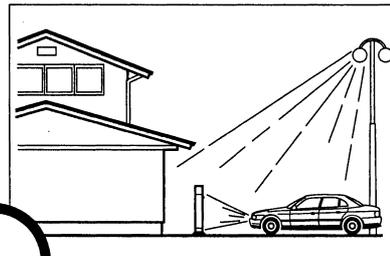
2.散水栓の確認（A・Bタイプ）

● 散水栓が近くにあることを確認してください。
（ない場合は、水道工事店に依頼して取り付けてもらってください。）

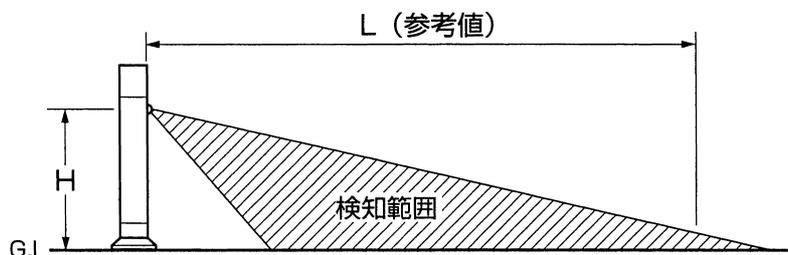
3.ポールの取付位置と方向の確認

● あらかじめご使用場所を想定してウッディガーデンオアシスの取付け位置とコンセント・水道の取出し方向を決めてください。

4.ポール取付け位置とセンサへの影響

●センサの誤作動を防止するため、下記の場所への建柱は避けてください。
① 既設照明の光がウッディガーデンオアシスのセンサの採光面に直接当たる場所。
② 車のヘッドライトなど、特殊な光が採光面に当たる場所。
③ 木陰・物陰になる場所。
④ 塩害のおそれのある場所及び高温多湿の場所。

5.熱線センサに関するご注意（A・Cタイプ）

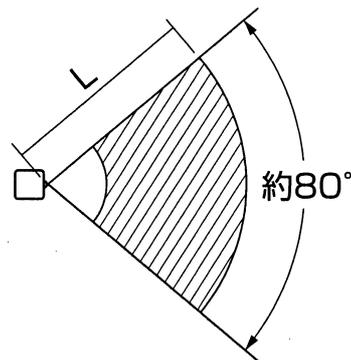
● 熱線センサの前に障害物を置くとセンサが作動しません。
● ウッディガーデンオアシスをG・Lより高い生け垣の中等に建てると熱線センサの位置が高くなりセンサの検知範囲が長く、かつ、広くなります。
● 熱線センサの検知範囲が公道に出ないようにしてください。
熱線センサの検知範囲が公道に出ると、熱線センサが公道を通る人や車を検知し不必要な点灯を繰り返します。
● ウッディガーデンオアシスは垂直に建ててください。
傾けると熱線センサの検知エリアが長くなったり短くなったりする原因になります。

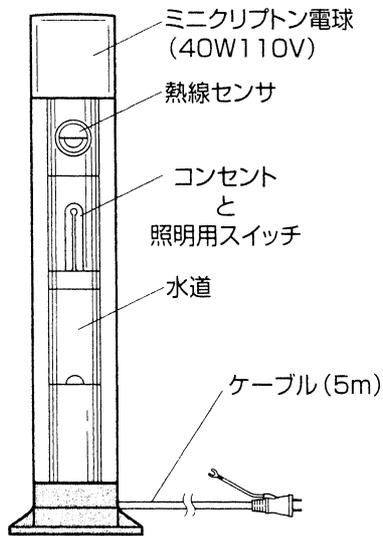
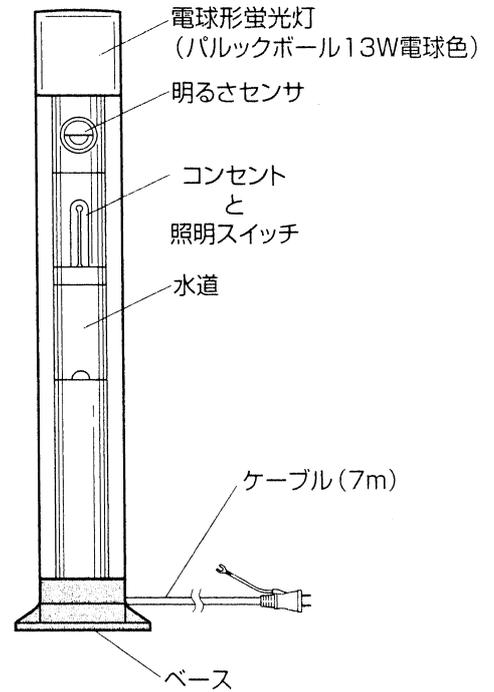
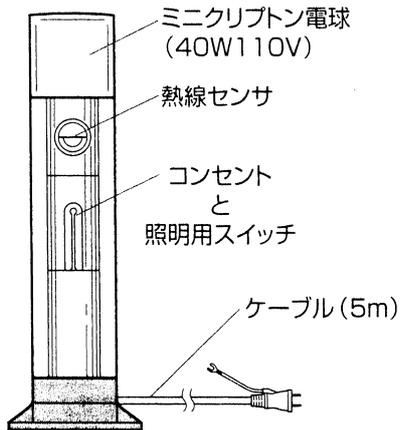
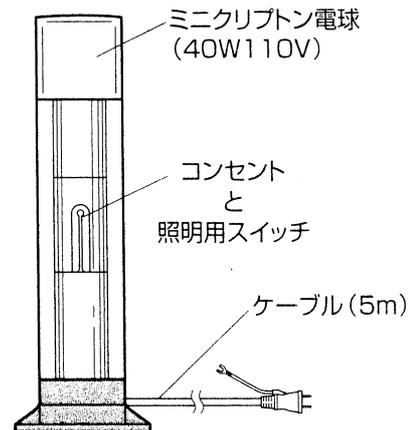
（1）ポール高さと熱線センサの検知距離

単位:cm

品　番	高さ:H	熱線センサの検知範囲:L
Aタイプ	53	約210
Cタイプ	40	約110

上表の検知距離は計算値です。

（1）熱線センサの検知範囲

ウッディガーデンオアシスを上から見た範囲は下図のとおりです。
ただし、下の検知範囲は平地でポールに傾きがない場合の検知範囲です。

3 各部のなまえと付属品

■LYV38　Aタイプ
（高さ70cm）

■LYV48　Bタイプ
（高さ85cm）

■LYV58　Cタイプ
（高さ57Cm）

■LYV68　Dタイプ
（高さ57Cm）

■付属品（A・B・C・Dタイプ）

番号	部品名	入数	備　考
1	ホーセンド	1	A・Bタイプのみ
2	メタルホーセンド	1	A・Bタイプのみ
3	アンカー	4	
4	木ねじ・座金	各4	φ4.8mm×32mm（SUS製）
5	取付説明書	1	
6	取扱説明書	1	施主様にお渡しください。

上表の部品が同梱されています。ご確認ください。

4 工事に必要な部材

水道付きのポールの場合、下記の部品をご準備ください。

No.	部 材 名	数 量	備 考
1	耐圧ホース	必要長さ	内径12mm・外径18mm・補強繊維入り
2	ホース接続金具	1	庭の散水栓の蛇口に接続する金具 （散水栓の構造に適合したものをお選びください。）

注）耐圧ホースは必ず、内径12mmのものをご使用ください。
　　内径15mmのものは、散水用ホースで耐圧ホースではありません。

5 ポール取付け前の準備

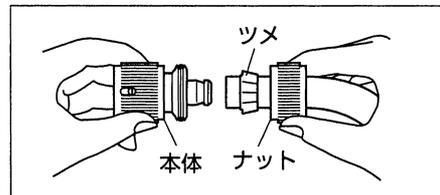
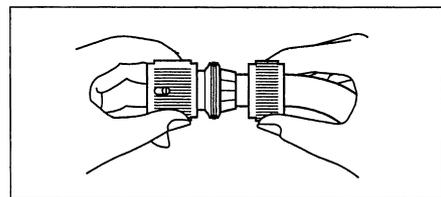
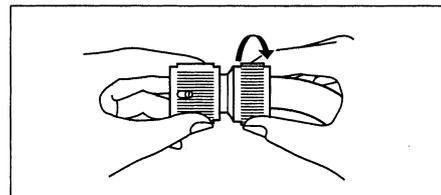
■水道付きの場合

①ポール取付位置から散水栓までの水道用ホースの敷設位置を確認する。
②水道用耐圧ホースを敷設位置に合わせて必要な長さを測定する。
③余裕をもった長さに切断する。
④ポール側のホースにメタルホーセンドを接続する。（ホースが抜けないようにしっかりとナットを締め付ける。）
⑤散水栓側のホースに散水栓接続用の金具をとりつける。
　（注）ホースの中に砂などが入り込まないように注意してください。

⚠注意

耐圧ホースを曲げる場合は、曲げ半径を必ず20cm以上にしてください。曲げ半径が小さいと、ホースが折れて水が出なくなります。

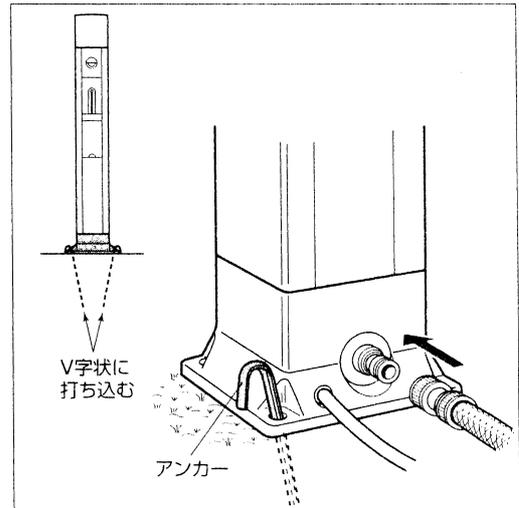
ホースの取付方法

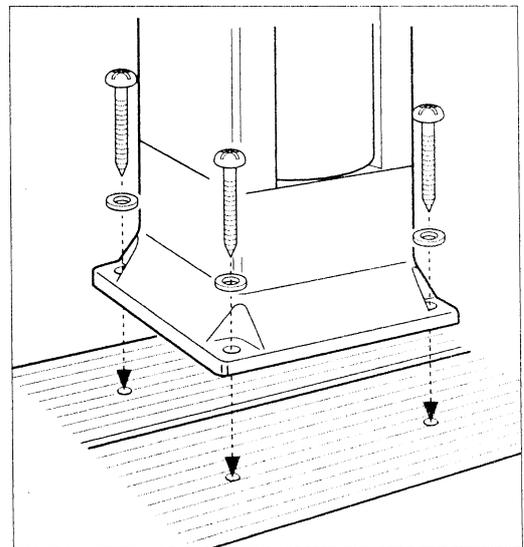
①ナットをはずし、ホースにナット、ツメ（向きに注意）を通します。

②本体にホースを深く差込み、ツメを奥まで入れます。

③ナットを締付けます。

6 ポールの取付け

■芝生・生け垣への取付け

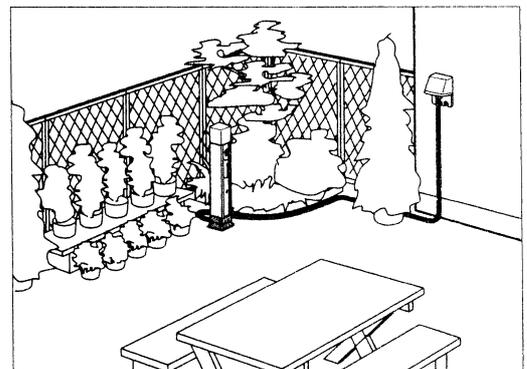
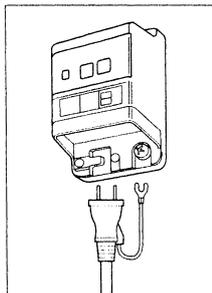
①取付け面を平らに整地する。
②付属のアンカーを4本とも打ち込む。（アンカーの折り曲げ部分も土の中に打ち込むこと。）
- 4本のアンカーを均等に打ち込んでください。1本のみを強く打ち込むとポールの傾きの原因になります。
- アンカーはV字状に打ち込んでください。
- アンカーを打ち込んだ後、アンカー付近の土を突き固めてください。（アンカーが抜けにくく、しっかりと固定できます。）

③水道ホースをポールに接続する。

⚠注意
ケーブルを土の中に埋め込まないこと。

■ウッドデッキへの取付け

① 取付け位置を決める。
② 縦・横154mmの位置に付属の木ねじ用の下穴をあける。（Φ3mm程度）
③ 下穴に合わせてポールを立てる。
④ 充電ドライバなどで付属の木ねじを、先にあけた下穴にねじ込みポールを固定する。
- 1箇所を急激に強く締め付けないで、4本を均等に締付けてください。。
- この時、充電ドライバのクラッチは必要以上に強くしないこと。木ねじが入り込むのに必要な強さに設定してください。木ねじを強く締付け過ぎるとベースの損傷やポールの傾きなどの原因になります。
- 木ねじには必ず座金を取りつけてください。

7 配線工事

① ケーブルを人の出入りや通行の邪魔にならない位置に（壁面に沿わすなどして）敷設してください。
② ケーブルの先端のキャップを建屋側の防水コンセントに差し込む。
③ ケーブルのアースリード線を、防水コンセントのアースターミナルに接続する。

⚠注意
ケーブルの長さが足りない場合、現場で一体成形のプラグを外し、ケーブルを継ぎ足さないでください。延長する場合は、電気工事店にご依頼ください。

8 センサの動作確認

①電源を入れる。
②蛍光灯または、ミニクリプトン電球が点灯する。
③約3分後に自然に消灯する。
④センサ部分を黒い布等で覆う。
⑤再点灯する。
⑥再点灯すれば正常です。日没後暗くなればセンサが作動します。

取説コード
Z057
200003A

東洋エクステリア株式会社

東北支店 022·246·7510㈹
関東支店 03·3209·8510㈹
中京支店 052·807·5501㈹
関西支店 06·6330·3631㈹
中国支店 086·478·5533㈹
九州支店 0943·32·3100㈹
札幌営業所 011·640·8000㈹
静岡営業所 054·238·3301㈹
長野営業所 026·263·0861㈹
広島営業所 082·241·4125㈹
南九州営業所 099·256·8955㈹
千葉出張所 0471·63·7888㈹